

障害福祉部

これから働きたい障害者・いまから社会に出ていく障害児が、多くの可能性に挑戦できる環境を作る。
また、ご家族や関係機関と連携をとり、障害者（児）が自分自身で人生の選択ができる手伝いを行う。

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

年間計画	取組内容	評価
賀茂みどりの樹で運営ソフトの導入を検討する。	どの程度のコスト削減や業務効率化が期待できるかを具体的に試算することが出来ていなかった。 そのため、導入判断ができず、見送っていた。引き続き導入を検討する。	×
賀茂みどりの樹の理念を考え、決定する。	話し合いの場は設けたが、決定には至っていない。 今後は保育部と協力しながら、方針を決定していく予定である。	△
リーダーの労務管理能力の意識向上を図る。	十分とは言えなかったが、サービス管理責任者が職員の勤怠管理、とりわけ残業管理に対して一定の意識を持っている状況であった。	△
賀茂みどりの樹と RING の連携を強化する。 特に職員欠員時の応援体制を確立する。	委員会運営や研修実施、各指針・計画作成等を事業所単位ではなく部として一体的に運用し、効率化を図った。 また、欠員時にも安定したサービス提供を行えるような応援体制を構築・運用した。	○
関係法令・方針・指針を部内の全職員と共有していく。	会議や研修で定期的に共有を行っていた。 特に経験の浅い職員を対象とし、定期的に研修を実施した。 内容は徐々に組織内で共有されつつあったが、職員の理解度や知識量には差があった。	△

中期的重点方針 評価：○達成・△一部達成・×未達成

年間計画	取組内容	評価
新規事業所の検討をする。	法人の方針として、現状の組織体制の強化を主眼に置き、積極的な新規事業展開は行わない方針となった。 今後も当面は、現状の体制維持および強化が法人運営の中心となる見通しである。	×
リーダーの育成に取り組む。 特に、専門的知識・事務処理・労務管理能力の向上を目指す。	事務処理については、部内で人材育成を進めていた。 特に請求業務を含む月次処理に関しては、実務を通じて知識とスキルの向上を図っている状況であった。	△
ICT 化や仕組みの見直しにより、業務効率化をはかる。	クラウドによるデータ管理や WEB 会議ツール、各種 AI ツール、支援・請求ソフト等の利用にも積極的に取り組んだ。 しかし、職員間の I C T スキルおよび環境に差があるため、完全な実用化には一定の期間を要する見込みであった。	△

賀茂みどりの樹

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

年間計画	取組内容	評価
祝日の開所日を増やし、受け入れの拡充と売上向上をはかる。	事務処理に追われており、現時点では実施できていなかった。次年度は、要望を確認した上で、開所に向けた体制づくりを進める予定であった。	×
児童発達支援で安全にも配慮し、遊具類の見直しを行う。	老朽化しつつある遊具類を整理して、購入や入れ替え再配置を行った	○
放課後デイサービスで部屋の再構造化を行う。空間をより効率的に活用する。	スペース活用のためレイアウト変更を実施した。また児童の成長に伴いサイズを調整できるようにした。	○

基本的計画

・利用率

【利用定員 放課後デイサービス 5 名・児童発達支援 5 名】

※1 日の平均稼働率

	年間計画	結果	評価
放課後デイサービス	5 名	3.7 人	△
児童発達支援	5 名	5.5 人	○

・職員数 11 名

管理者	1 名	児童発達支援管理責任者	1 名	保育士	2 名
児童指導員	1 名	非常勤保育士	2 名	非常勤	4 名

・サービス提供時間

児童発達支援	【火曜日～金曜日】9 時 45 分～16 時 【土曜日及び長期休業中】9 時 45 分～16 時
放課後デイサービス	【火曜日～金曜日】14 時 30 分～17 時 30 分 【土曜日及び長期休業中】10 時 30 分～16 時 30 分

・指定期間

児童発達支援事業所	令和 5 年 4 月～令和 1 1 年 3 月
放課後等デイサービス	令和 5 年 4 月～令和 1 1 年 3 月

中期的重点課題 評価：○達成・△一部達成・×未達成

・放課後デイサービスの送迎ルートの効率化

年間計画	取組内容	評価
人件費削減・人員確保のために送迎ルートを削減するなどし、送迎の効率化をはかる。	現状での送迎ルート整理はおこなった。 今後は、事業運営との連携も含めて引き続き効率化をはかっていく。	△
理念に基づいた、療育方針の確認と見直しを行う。	理念に基づいた療育方針の見直しは行えていない。 まずは賀茂の理念方針を保育部と協力して決定してから、あらためて療育方針との見直しを行っていく。	×

施設・設備整備状況 評価：○達成・×未達成

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況		評価
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	

RING

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

営業先の開拓

年間計画	取組内容	評価
関係機関に向けて、DM・パンフレットを発信する。	DMの発信は行えていないが、パンフレットを新たに作成し、訪問時の配布や情報共有を行った。	△
主な営業先に向けて定期訪問をする。 特に病院関係の強化を図る。	すでに関係が出来ている機関には定期訪問を行えたが、医療機関に関してはアプローチ出来ず、繋がり依然弱い。 一方、今年度は労働局との連携が強化された。	△
新規就職先（新業界）の開拓を行う。	作業で受注しているビルメンテナンス業務を中心に、新規職場の開拓が進められた。	○

・職員育成

年間計画	取組内容	評価
利用者獲得・作業獲得に向けた営業活動を、リーダーが担えるようになる。	これまで所長が行ってきた営業活動の一部をリーダーに移管できた。 主に作業紹介や就労先での事業内容紹介が可能となった。	△
一人年2回以上、専門的外部研修に参加する。	常用職員は平均8回以上研修に参加できたが、定時職員は参加者からの伝達研修が主となった。	△

・訓練・作業の効率化について

年間計画	取組内容	評価
ビルメンテナンス業（特に就労継続支援事業 B 型）を強化する。	新しい業者との取引開始も含め、ビルメンテナンスの作業量が増加できている。	○

	移行から B 型へ作業を一部移行するなどし、B 型におけるビルメンテナンス作業の拡充を引き続き行っていく。	
物販発送業務に利用者がより携われる仕組みづくりを行う。	タブレットを用いたチャットアプリでの商品受け取り連絡、発送商品の梱包、資材準備などの一部業務を利用者が担当出来るようになった。	○
施設外就労の終日現場を拡充する。	終日作業の現場が毎日行える環境が整備された。	○

基本的計画 評価：○達成・×未達成

【利用定員 就労継続支援事業所 B 型 12 名・就労移行支援事業所 8 名】

・就労移行支援事業所

	年間計画	結果	評価
平均利用者（／月）	6.5 名	7.2 名	○
就職者数（／年） ※来年度に反映できる実績	4 名	5 名	○
生産活動売上（／年） ※単位：千円	5,410(税別)	7,107（税別）	○
利用者の平均工賃（／月） 単位：千円	20	26.145	○

・就労継続支援事業所 B 型

	年間計画	結果	評価
平均利用者（／月）	12 人	12.4 人	○
生産活動売上（／年） ※単位：千円	5,170(税別)	7,694（税別）	○
利用者の平均工賃（／月） ※単位：千円	25	35.116	○

・職員数 9 名(兼務 2 名)

管理者	1 名	サービス管理責任者	1 名
職業指導員	2 名	非常勤職業指導員	0 名
生活支援員	1 名	非常勤生活支援員	3 名
目標工賃達成指導員	1 名	就労支援員	1 名
就労定着支援員	1 名		

・ サービス提供時間

開所時間	8 時 30 分～17 時 30 分
利用時間	8 時 30 分～15 時 00 分

・ 指定期間

就労移行支援事業所	令和 5 年 7 月 1 日～令和 11 年 6 月 30 日
就労継続支援 B 型事業所	令和 5 年 7 月 1 日～令和 11 年 6 月 30 日
定着支援事業所	平成 31 年 5 月 1 日～令和 7 年 4 月 30 日

中期的重点課題 評価：○達成・△一部達成・×未達成

年間計画	取組内容	評価
内職をテーマとした、就労継続支援事業所 B 型を立ち上げる。	法人の方針として、現状の組織体制の強化を主眼に置き、積極的な新規事業展開は行わない方針となった。 今後も当面は、現状の体制維持および強化が法人運営の中心となる見通しである。	×
ビルメンテナンスのプロとして従事できる福祉職員を育成する。	基本的な作業や機械洗浄については問題なく現場を回せる職員の育成ができた。今後は、ビルクリーニング技能士などの資格取得を目指す方針を立てる。	△

施設・設備整備状況 評価：○達成・×未達成

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況		評価
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	

【RING が行った公益的取り組みについて】

① 広島市中区通所部会の部会員として、以下の取り組みを実施した。

※広島市中区通所部会は、広島市障害者自立支援協議会 中区地域部会の下部組織として位置づけられており、地域における障害者支援体制の整備および関係機関との連携強化を目的としている。

・ 報酬改定に関する相談会

制度改正に伴う疑問や不安を共有し、事業所間での情報交換を行った。

・ 若手職員の交流会（職歴 4 年未満対象）

業務に関する悩みや工夫を共有する場を設け、他事業所とのつながりを深めた。

- ・事例検討会

事業所より提供された実際の支援事例をもとに、参加者全体で検討および意見交換を行い、支援の質の向上を図った。

- ・年度のまとめおよび来年度への提案アンケート

1年間の活動を振り返り、次年度に実施を希望する内容について意見を集めた。

② 広島障がい者就労支援協議会の委員として、以下の取り組みを実施した。

※広島障がい者就労支援協議会は、障害のある方々の就労支援を目的とし、関係機関や企業と連携しながら、さまざまな支援事業を企画・実施していた団体である。

- ・能力開発講座（専門研修）の内容検討および共催

障害のある方の職業能力向上を目的とした研修内容の検討に携わり、その実施に協力した。

- ・オープン見学会の共催

障害者雇用に取り組む企業等の現場を見学する機会を設け、参加者が就労の具体的なイメージを持てるよう支援した。

- ・合同面接練習会の企画運営

模擬面接を通じて就職活動の実践力を高める場を提供し、企画から当日の運営まで関与した。

- ・合同相談会（おしごと相談会）の企画

参加者が複数の支援機関に一度に相談できる就労支援イベントを企画した。

- ・労働局主催イベントの共催

関係機関との連携による啓発・支援活動の一環として、イベントに参画した。

- ・就労支援ガイドマップの作成・配布

支援機関や制度を紹介するツールを作成し、当事者や関係者への周知を行った。

③ 学校への清掃指導員の派遣を実施した。

広島県立廿日市特別支援学校および広島市立広島特別支援学校において、清掃業への就職を目指す生徒を含む就活生に対し、ビルクリーニング技能士を講師として派遣し、清掃指導を行った。

本取り組みは、清掃の基礎的な技術指導に加え、実際の現場で求められる専門的な知識や心構えを伝えることを目的としたものであった。

ビルクリーニング技能士による実践的な指導を通じて、生徒たちは清掃業の業務内容をより具体的に理解し、自信を持って就職活動に臨むことができるよう支援した。